

Slovenia Monthly September 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年10月9日



～9月の主なポイント～

- 政治：** 次期大統領選挙の候補者9名確定。現時点での支持率第1位はパホル大統領34.8%。ブレッド戦略フォーラムが開催され、欧州地域の政治経済情勢に関する議論を展開。ツェラル首相、国連総会に出席し、「国際法の遵守は国際平和と安定の基礎」と言及。
- 経済：** コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画に関する国民投票で53.5%が政府支持。
- 社会：** バスケットボール欧州選手権、スロベニアナショナルチームが史上初の優勝。スロベニアの歴史への理解促進に貢献した柴宜弘・城西大学教授、国家功労勲章を受章。

政治

【内政】

●大統領選挙の候補者確定【28日】



(Photo: Ta Tretunek.si)

28日、選挙管理委員会は、10月22日に実施される次期大統領選挙について、申請書類の精査を完了し、以下の9名の候補者が確定した旨発表した。(順不同)

1 リュドミラ・ノヴァク(Ms. Ljudmila Novak)新スロベニア党首(野党・新スロベニア(NSi))

- 2 マリヤン・シャレツ (Mr. Marjan Šarec) カムニク市長(野党「Marjan Šarec List」党)
- 3 マヤ・マコヴェツ・ブレニッチ(Dr. Maja Makovec Brenčič)教育・科学・スポーツ大臣(連立与党・現代中央党(SMC))
- 4 ボルト・パホル(Mr. Borut Pahor)大統領(現職、無所属)
- 5 アンジェルカ・リコヴィッチ(Ms. Angelca Likovič)氏(野党「Voice for Children and Families」党)
- 6 ボリス・ポポヴィッチ(Mr. Boris Popovič)コペル市長(野党「Slovenia Forever」党)
- 7 ロマナ・トムツ (Ms. Romana Tomc) 欧州議会議員(野党・民主党(SDS))
- 8 スザナ・ララ・クラウセ(Ms. Suzana Lara Krause)氏(野党・人民党(SLS))
- 9 アンドレイ・シシュコ (Andrej Sisko) 氏(野党「United Slovenian Movement」党)

主な候補者のプロフィールは以下のとおり。

(1)パホル大統領：

1963年生まれ。無所属で出馬したが、大統領就任前の15年間党首を務めた中道左派の連立与党・民主党(SD)の推薦を受けている。大統領2期目を目指す。スローガンは前回と同じで「共に(Together)」。2000年から2004年まで国民議会議長を務め、2

004年には欧州議会議員に選出される。また、2008年から2011年まで首相を務めた。

(2)ノヴァク・新スロベニア党首:

1959年生まれ。中道右派の野党・新スロベニア(NSi)の擁立候補。本選挙では、民主主義、政治的安定、繁栄、国家統一、汚職の払拭等を訴え、またスロベニアを世界第15位の国に成長させたいと抱負を述べた。2001年から2004年までモラウチェ(Moravče)市長、その後欧州議会議員を務める。2008年より、NSi党首として努めており、2011年、同氏のリーダーシップのもと議会におけるNSi議席を取り戻した。2012年には在外スロベニア人担当大臣を務めた。

(3)シャレツ・カムニク市長:

1977年生まれ。自身が立ち上げた、議会に議席を有さない「Slovenia Forever」党の擁立候補。9月25日、スロベニア全国を回る選挙キャンペーンを開始し、スロベニア・クロアチア間の国境画定問題等の外交政策における統一を呼びかけた。また、市民保護や災害時における救済サービスの向上も重要アジェンダとして掲げ、独立後26年が経過したスロベニアの政治においては、新しいアプローチが必要として世代交代を訴えた。2010年、カムニク市長に選出。政界に入る前は、国营テレビ「RTV Slovenija」の記者として勤務。一般市民には、政治風刺のテレビ番組における物まね役者として知られている。スローガンは「人。社会。国。(Human. Community. Country)」。

(4)ブレンチッチ教育・科学・スポーツ大臣:

1969年生まれ。中道左派の連立与党第一党・現代中央党(SMC)の擁立候補。大統領に選出された場合、選挙権年齢の引き下げ(18歳から16歳へ)及び大統領による新法律の施行拒否権を導入するとしている。2015年に大臣に就任する前は、リュブリャナ大学副学長、国際ビジネス科の教授等を務めていた。2016年、リュブリャナ大学経済学部長時代のボーナス不正支給をめぐるスキャンダルに巻き込まれるが、その後全額返却している。

(5)トムツ欧州議会議員:

1965年生まれ。中道右派、野党・民主党(SDS)の擁立候補。「尊重と協力」のスローガンの下選挙戦を戦うと述べている。経済学者であり、商工会議所(GZS)において約10年勤務。経営者協会での職歴もあり、労働省の副大臣も歴任。2011年から2014年まで国民議会議員だった際、2年間副議長を務めた。現在、欧州人民党・民主党(EPP/SDS)の欧州議会議員。成人した子供が2人いる。

●大統領選候補者の支持率【29日】

28日—29日に実施された当地日刊主要紙 DELO 紙の世論調査(手法:オンライン, 成人500人を対象)によれば、各候補者の支持率等は以下のとおり。パホル大統領 34.8%, シャレツ・カムニク市長 22.7%, ノヴァク新スロベニア党首 10.6%, トムツ欧州議会議員 9.9%, ブレンチッチ教育・科学・スポーツ大臣 2%, 他4名の候補者の支持率は0.6%~1.1%。また、「投票先を決めていない」は8.6%, 「投票に行かない」は7.7%。

投票先の決定要因として、人格・性格(personality)と回答したものが63%と最も多く、経験が33%, 所属政党が7%と続いた。

なお、パホル大統領と主要候補者で決選投票が行われる場合の投票先については、シャレツ市長の場合は、48%がパホル大統領を支持するのに対して、35%がシャレツ市長を支持すると回答。ノヴァク党首またはトムツ欧州議員の場合は、53%がパホル大統領を支持、ブレンチッチ大臣の場合は、60%がパホル大統領を支持すると回答した。

【外政】

●ヤングブレッド戦略フォーラム開催【3日】

1~3日に開催されたヤングブレッド戦略フォーラム(BSF)にて、世界各国から集まった若者たちは「分裂した現実(disconnected reality)」のテーマの下、農業、公共サービス、都市計画、教育やサイバーセキュリティ等につき協議し、ビジネスBSFで発表予定の9つの政策案を提出した。また、同フォーラムの開会式に出席したツェラル首相は、「スロベニア及び世界各地から集まった若者たちは、全人類共通の基本的価値の重要性を認識していると思う。科学は、この世界の発展にも繋がれば、災害へと繋がる可能性も秘めている。顔の見える人間的な目的を持ったデジタル化を目指してほしい。」と激励した。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●ブレッド戦略フォーラム開催【5日】

4日～5日、「新たな現実 “New Reality”」のテーマの下第12回ブレッド戦略フォーラム(BSF)が開催され、モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表、グリアOECD事務総長、天野IAEA事務局長、ティンマーマンズ欧州委筆頭副委員長、ライチャーク国連総会議長(スロバキア外相)、ブルナビッチ・セルビア首相、南東欧・中欧諸国の外務大臣16名ほか、各国の閣僚及び国際機関代表らが約90名、全体で70か国から1000名を超える参加があり、同フォーラム史上最大の規模となった。

2日間を通して、リーダーズパネルをはじめとする約20件の主に欧州地域における政治経済情勢に関するパネルセッションが設けられ、それぞれのテーマで活発な議論が交わされた。

本年は、日本から津田純嗣・安川電機代表取締役会長が「Role of Innovation in New Reality」、内藤正典・同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授が「Southern Mediterranean」のセッションにそれぞれパネリストとして登壇し、ヤングBSFへも、安川電機ロボット事業部の古屋隆資氏、オムロン環境事業本部グローバルマーケティング部の川井和哉氏、そして、同志社大学大学院博士課程の鷲見優氏が参加した。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●ツェラル首相、イタリア首相と会談【7日】

7日、ツェラル首相は、スロベニアを訪問したジェンティローニ・イタリア首相と会談し、二国間関係、難民問題及びクロアチアとの間の国境線画定問題等につき意見交換を行った。難民問題に関し、両首脳は、本件問題に対処しているEU加盟国間の団結を呼びかけ、EUは難民の発生源となっているアフリカ諸国に対する支援を拡大し、通過国における人権保護を強化すべきとの考えで一致した。ジェンティローニ首相は、難民受け入れ及び地中海における監視活動でのスロベニアの協力は模範的であるとして評価し

た。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●エリアヴェツ外相、北朝鮮情勢に言及【13日】

13日、国民議会外交政策委員会の会合が開催され、エリヤヴェツ外相は、ムラカル議員(年金者党(DeSuS))の北朝鮮情勢に関する質問に対し、北朝鮮に対する軍事介入は3000万人もの死傷者が発生する虞があるとの見解を表明した。また、同外相は、EUは本件危機の解決を支援することが出来るが、中国が重要な役割を果たすと述べた。同外相は、北朝鮮に対する制裁は、既に厳しい状況に晒されている同国国民にこれ以上の影響を与えるべきではないとのEU外相会合の結論を紹介した。

●核兵器禁止条約への署名を否定【20日】

20日、国連総会出席中のツェラル首相は、核兵器禁止条約に署名しないとの立場を表明した。同首相は、スロベニアは核兵器の廃絶を支持するものの、同条約の幾つかの条項は余りにも急進的且つ非現実的な内容であると述べた。また同首相は、北朝鮮が核兵器を所有し続ける限り、その他の国が廃棄することは困難であろうと述べた。同条約の署名については、スロベニアの野党左派連合が、政府に対し、署名するよう主張していた。

●ツェラル首相、国連総会に出席【21日】

21日、ツェラル首相は、国連総会での一般討論演説を行い、国際条約、国際裁判所判決及びその他の国際法の遵守は、国際平和と安定の基礎であり、国際社会が機能していくために必要不可欠なものと指摘した。また、同首相は、国際社会が直面する挑戦に対処していくためには、効果的な国際協力が重要であると述べ、その一例として難民問題の対処には、責任の共有と団結が重要であると述べた。

また、ツェラル首相は、スロベニアによる環境保護

分野における国連での貢献を強調した上で、スロベニアは、飢餓撲滅、食糧安全保障、健康促進、環境保護及び生物多様性の維持における蜂及びその他の花粉を運ぶ動植物の重要性を強調し、スロベニアが提唱している「世界蜂の日」の創設が今次国連総会において決定されることに期待を表明した。

更に同首相は、世界における人権尊重促進の重要性を強調し、スロベニアは人権理事会理事国として、人権問題に関する先進的なアプローチを継続すると述べた。

同首相は、条約を基礎とした核廃棄及び武器管理レジームにコミットしているとして、北朝鮮による国連安保理決議の違反を「周辺地域のみならず、より広い地域への深刻な平和と安全への脅威となる」として強く非難した。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

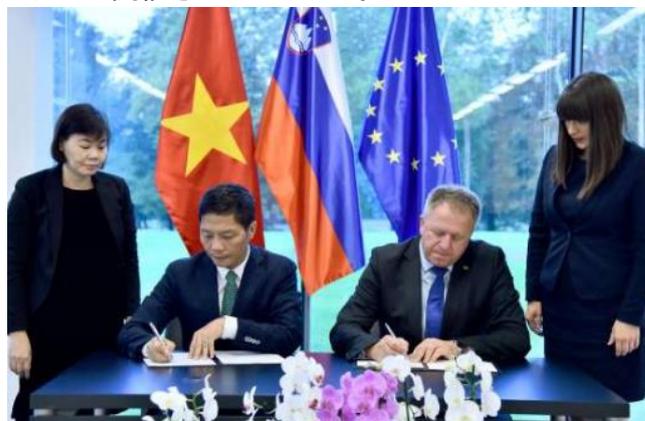
●ベネディッチ大使、IAEA理事会副議長に選出【25日】

25日、ベネディッチ・ウイーン国際機関代表部大使が、2名いるIAEA理事会副議長の1人に選出された。議長にはジュマラ・インドネシア大使が、もう1人の副議長にはプレスナー・デンマーク大使が選出された。なお、スロベニアは2016年から18年の任期でIAEA理事国を務めている。

●スロベニア・ベトナム間の経済協力強化に向け議定書署名【25日】

25日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、スロベニア訪問中の Tran Tuan Anh ベトナム産業貿易相との間で両国間の協力強化に向けた議定書に署名した。両国は、議定書の中で、ロジスティクス、自動車及び食品産業分野での協力の機会を強調した。ポチヴァルシェク大臣は、2日間に亘る第一回常設経済協力委員会会合後、伝統的に良好な両国間の政治協力を、経済分野での協力に拡大させて行きた

いとのかえを述べた。現在の両国間の貿易高は4500万ユーロ足らずで、そのうち3100万ユーロが輸出となっている。同大臣は、本議定書は、次のステップに移行するための基礎であり、次回会合は来年ベトナムで開催されると述べた。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●スロベニア・クロアチア間国境画定問題の動き【8日、21日】

8日、スロベニア政府は、最終裁定の履行により、影響を受けるクロアチア国境周辺の国民の保護を目的とした緊急法案策定に際するガイドラインを策定した。約100名の住民に対するインタビューを踏まえて策定された同ガイドラインは、12日、影響を受ける住民に提示された。同法は、国境線変更に伴い発生する住民の社会保障の問題、車両登録、建物の建設許可証の発行及び登記、法人登録等の問題に対処することを主な目的としている。

21日、国連総会出席中のツェラル首相は、プレニコビッチ・クロアチア首相が、一般討論演説において、「国際条約及び仲裁プロセスは、規則に基づき履行された場合のみ合法である」と述べたことを受け、27日、ザグレブで予定されていた首脳会談をキャンセルことを決定した。同首相は、「自分は、2日前にプレニコビッチ首相との間で、首脳会談を実施し、仲裁裁定につき議論することに合意したが、今回、このような発言を全世界を前にして、最も公式な形で行ったことは、同首相が合意を破棄したことを意味している」と述べた。

経済

【マクロ経済・統計】

●企業における人材不足について議論【15日】

15日、ツェリエ市にて開催された国際貿易フェアの一環として、国民議会の教育委員会が開いたセツ

ションにおいて、企業における人材不足について議論された。同セッションに参加したポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、「経済成長が続いており、失業率も低下している。教育の流れ・内容を、事務職向けから技術職向けへと方向転換すれば良い」として、若者の能力向上は達成できると述べた。他方、メフ(Branko Meh)貿易工業企業商工会議所会頭は、若者の失業率が15%とEU平均値を記録しているが、若者の卒業後3年間の就職率はEU圏内で最下位であると述べ、スロベニアの小中学校にて技術的な訓練を増やし、また、就職の代わりに進学すべきという考え方を払拭する必要があると述べた。

スロベニアに迫る！ ⑤

職業訓練の現状

2016年現在、123校ある高等学校には、普通科(4年制)のほかに技術科(4~5年制)、職業科(3~4年制)及び短期職業科がありますが、技術科・職業科で就学する高校生の割合が2010年の59%から2016年64%と増加しています。スロベニアでは高等学校への進学率が9割を超えることを勘案すると、近年技術科及び職業科の卒業生の割合も若者全体の5割以上と考えられます。

そのような背景の中、近年スロベニアは経済成長を続け、失業率も全体的には下がり続け2016年末時点には約8%を記録しましたが、若者(15—24歳)の失業率は依然として16%と相対的に高く、その原因の一つとして労働市場におけるスキルのミスマッチが指摘されてきました。そのため、スロベニア政府は状況を改善すべく見習い制度にかかる法の整備等に取り掛かり、本年5月、見習い制度法(Law on Apprenticeship)が議会で可決されました。

では、この見習い制度法の施行で何が変わるのでしょうか。現在、技術科及び職業科の高等学校のカリキュラムでは、授業時間の15%~25%を企業における実習として織り込まれています。主な変更点としては、見習い制度下ではこの高等学校での企業実習の割合が50%と大幅に拡大されるため、企業にとっては、より会社のニーズに合致した人材が育成され、見習い生にとっては、長期の職場経験を積みつつ、依然として高校の卒業証書も取得できるため、就職・進学オプションが広がることです。



今秋、スロベニア政府は、教育機関、商工会議所及び企業等との共同で、見習い制度パイロット事業を開始しました。金属加工、石工、木工、調理・ホテルマネジメントの4分野で導入し、3年間で見習い200名の育成を目指しています。本年9月現在、53名の登録がありました。

しかしながら、欧州職業訓練開発センター(CDEFOP)の報告書によると、企業研修期間の拡大以外は既存の教育制度との違いが不明瞭であり、特に中小企業にとってはメンター(指導者)設置・高校カリキュラムへの協力等の負担が大きいため消極的である等、課題が指摘されています。また、見習い制度を含めた職業訓練促進計画(約3000万ユーロ)は主にEU補助金によって賄われているため、持続性確保も課題です。

今秋開始されたパイロット事業の動向が注視されます。

(出典/写真: CDEFOP (2017) "Apprenticeship review: Slovenia")



●秋期経済観測:2017年 GDP 成長4.4%【21日】

21日、政府系シンクタンクのマクロ経済分析発展研究所(IMAD)が秋期経済観測を発表し、本年のGDP成長率見通しを3.6%から4.4%に大幅に上方修正した。また、2018年の予測成長率を3.9%とした。経済成長の主要因は、引き続き堅調な輸出及び家計消費の拡大である。輸出は、昨年は6.4%増加、本年は8.8%増加の見通しである一方、家計消費は昨年の増加率4.2%を若干下回る3.3%の増加が予測される。また、ヴァスレ(Boštjan Vasle)IMAD所長は、現在の成長の要因として、2.7%増加が見込まれる雇用拡大が挙げられるが、今後は、人口構造の変化により雇用拡大は緩やかになるだろうと述べた。

●世界競争力報告:スロベニアは第48位【27日】

27日、世界経済フォーラム(WEF)が発表した2017年版「世界競争力報告」によると、スロベニアの総合順位は前年より8つ上がり48位だった。過去同様に、スロベニアは保健及び初等教育(14位)、高等教育及び訓練(24位)で評価が高かった一方で、金融市場開発(106位)及び労働市場の効率及び規模(82位)で低評価だった。スロベニアの近隣諸国

では、オーストリアが18位、イタリアが43位、ハンガリーが60位、クロアチアが74位であり、スロベニアは依然として旧ユーゴスラビア共和国の中で最上位を記録した。なお、首位はスイス、米国(2位)及びシンガポール(3位)が続き、日本は前年より1つ下がり第9位だった。

【金融・企業関係】

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線、国民投票で53.5%が政府支持【24日】

24日、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設法案の是非を問う国民投票が実施され、20.5%が投票し、そのうち53.5%の投票者が政府の法案に対する支持を表明した。その結果、市民団体による同法案の履行差し止めは否決された。ツェラル首相は、低い投票率に関し、「スロベニア国民は、投票に行かないことにより、政府に対し計画通り仕事を続けて欲しいとの意思を表明した」と述べた。また、政府関係者は、今回の国民投票の結果は、スロベニア国民がこれまでの政府の努力を認め、政治的ゲームに辟易していることを示していると述べた。これに対し、反対派代表のコヴァチッチ氏は、引き続き、同法の履行に反対していくとして、次のステップとして憲法裁判所に提訴するとの考えを示した。

●イノベーション・アワード授賞式開催【27日】

27日、ブルドーにおいて商工会議所の主催で、2017年のベスト・イノベーション・アワードの授賞式が開催され、パホル大統領は、「イノベティブな起業家精神は、成長及び競争力強化の原動力であり、その能力は、企業を新たな国際環境に適応させることを可能とする」と述べた。

ゴールドン・アワードを受賞した企業は以下の通り。

◇Aerofom社: VR技術を活用したフライトシュミレーター

◇BSH(Bosch)社: 多機能調理用ミキサー

◇Cetis社: パスポート用ポリカーボン・データページ

◇Danfoss Trata社: 空気清浄・空調システム用スマート温水循環器

◇Elan社: 折りたたみ式山岳スキー

◇ETI社, eNeM社: サーモスタット用エレメント

◇Gorenje社: 新型食器洗浄機

◇Iskraemeco社: スマート電気メーター

◇Krka社: 高血圧治療薬の製造過程向上

◇Ledinek Engineering社: 特殊な木材加工技術開発

◇Lek社(Slovenia Development Center): 子供が飲みやすい抗生物質の錠剤

◇Acroni社(Jesenice Development Center): 特殊鋼材Sinox 4542

社会・文化・スポーツ

●柴宜弘・城西大学教授、国家功労勲章を受章【11日】

11日、大統領府クリスタルホールにて、柴宜弘・城西大学中欧研究所副所長に対するスロベニア国家功労勲章授与式が開催された。柴教授は、旧ユーゴスラビアの崩壊等の歴史に関する理解を深めるために貢献した。特に、スロベニアの現代歴史研究所(Institute of Contemporary History)の研究者らとともに、旧ユーゴラビアにおけるスロベニアの地位・役割、及びスロヴェニアの独立への道に関する歴史社会的背景等を研究。また、同教授は、過去20年にわたり、日・スロベニア大学間交流を促進し、研究教育活動を通して、スロベニアを広く日本国民に紹介。(当館注:本年9月10日に「スロヴェニアを知るための60章」(共著・編集:柴宜弘, アンドレイ・ベケシュ, 山崎 信一)が出版された。)



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●スロベニア、高等教育修了率43%【12日】

12日、OECD「図表で見る教育2017」報告書の中で、OECD加盟国及びパートナー国35カ国の中で、スロベニアは、2010年から2014年までの教育に対する国家予算の支出の減少幅が最も大きかったと発表した。2014年、スロベニアの教育セクターへの支出が国家予算全体に占める割合は8.7%を記録し、OECDの11.3%を下回った。他方、若者の高等教育修了率は、過去11年で18%増加、2016年には、43%を記録して、EUの平均値を上回った。また、大学における外国人学生の割合は3%(2015年)とOECDの平均値11%を大きく下回った。

●バスケットボール欧州選手権, 優勝【17日】

スロベニア・ナショナルバスケットボールチームは、イスタンブールで開催されたバスケットボール欧州選手権(EuroBasket2017)で国内史上(ナショナルチームにとって)初の金メダルを獲得した。予選で1敗もせずにとーナメントに進出した唯一のチームであるスロベニアは、2016年リオ・オリンピック大会の銀メダルを獲得したセルビアと決勝戦で対戦し93:85で勝利した。決勝戦には7千人ものスロベニア人が開催地イスタンブールまで応援に駆けつけた。決勝戦翌日には、リュブリャナ市内の kongress広場にて凱旋した選手を迎えて祝賀会が開催され、約2万人ものファンが参加した。また、今後パホル大統領により勲章が授与される予定である。



(Photo: Stanko Gruden/STA)



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●スラローム・ワイルドウォーター世界選手権で優勝【30日】

9月26日～10月1日に、フランスのポーで開催された2017年スラローム・ワイルドウォーター世界選手権(2017 ICF CANOE SLALOM & WILDWATER CANOEING WORLD CHAMPIONSHIPS)で、スロベニア人のベンヤミン・サウシェク(Benjamin Savšek)選手が優勝。サウシェク選手(30歳)はこれまでの世界選手権で銅メダル(2013年)、銀メダル(2014年、2015年)の計3つのメダル獲得をしてきたが、惜しくも一位を逃しており、今回が初めての金メダル獲得となった。

発見！スロベニア
国際スイーツフェア
「Sladka Istra」開催



9月23日～24日、スロベニア海岸沿いのコペル市で第9回国際スイーツフェア「Sladka Istra」が開催され、イストラ地方を中心にスロベニア全土から100団体以上が出展し、伝統菓子や最新のデザート・スイーツ商品、チョコレート菓子等が紹介されました。



今年は生憎の雨のため屋内で行われましたが、晴天に恵まれた年は海岸沿いに Sweets Street が設置されます。

伝統的なスイーツの中には、有名なポティツァやギバニツァのほかに、

「ミシュケ Miške (小さなねずみ)」と呼ばれるしっぽのついたーロドーナツや「シュモルン šmorn」と呼ばれ

るパンケーキをちぎったものにジャムや粉砂糖をかける焼き菓子があり、とても懐かしい味がしました。Miške は伝統的にクリスマスや2月のカーニバルの時に焼かれるお菓子です。また、šmorn はもともとオーストリア＝ハンガリー帝国の時代から人気のあったカイザーシュマーレン Kaiserschmarren がスロベニアに紹介されたものです。



また、より現代的なスイーツでは、新鮮なフルーツやナッツ類のクリームを使用したデザートが紹介されていた他、スパナー型や靴型のチョコレートもあり、訪れる人々の目を楽しませていました。



小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第5回 「デルヴァリッチ Touristic farm Dervarič」



今回は、スロベニアに850家あると言われるツーリスト・ファームの中のワイン農家を紹介します。ツーリスト・ファームでは、農家の人々との交流を通して、その土地の文化、知恵、習わしや日々の

暮らしを体験するのが特徴です。今回訪れたのは、スロベニア東部、白ワインの産地として知られるエルサレム地域のデルヴァリッチ家のファームです。

リュブリャナ市から車で2時間半ほど走ると、辺り一面ブドウ畑が広がっています。ファームに到着すると、葡萄を山盛りに積んだトラクターが到着し、親戚や村の人々が手伝いに現れました。ブドウの収穫日です！



除梗破碎機にエンジンがかかり、葡萄はその茎と実に分けられた後、実は搾汁機へと運ばれ、みるみるうちに果汁へと変わっ

ていきました。味見した搾りたての葡萄果汁は甘い味わいでした！

全体で2ヘクタールあるデルヴァリッチさんの葡萄畑では、地元のシュポン (Šipon) のほかシャルドネ等が栽培されています。白ワインはフルーティーさと適度な酸味のバランスがあり、そのほとんどが地元のお店やレストランに提供されています。スロベニアのワインは安価で高品質なことで知られていますが、小規模農家にとっては比較的成本が高いため、収穫時などには外部の労働者を雇うことなく家族や隣家が力を合わせて作業に取り組むのだと、ご主人のヤニさんが説明してくれました。

その晩はファームの二階に泊まり、次の朝は、地元のチーズやハム、フルーツを朝ごはんに頂きました。帰り際には、自家製の梨リキュールやカボチャ種のオイルなどをお土産に買い、充実した週末となりました。

(HP: www.turisticna-kmetija-dervaric.com/en/)



在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●美術団体RYUの絵画が展示～第6回国際芸術祭(クラン)

今年のクラン国際芸術祭のテーマは「シンボル、色と形」。市内各所にて様々な作品が展示されていますが、クラン市内のジャズ・カフェでは濱野年宏画伯の作品をはじめ、寒川典昭氏ほか美術団体 RYU のメンバー2名の絵画数点が展示されています。

○会期: 9月28日(木)～11月5日(日)

○場所: Cafe galerija Pungert (住所: Trubarjev trg 6, Kranj)

●第4回 Slowind Spring ～武生アンサンブル公演

細川俊夫氏率いる武生アンサンブルがリュブリャナのフィルハーモニーにやってきます。演奏曲目は細川俊夫氏作曲のオリジナル楽曲が中心。

○日時: 10月11日(水)午後20:00～

○場所: スロベニア・フィルハーモニー(住所: Kongres trg 10, Ljubljana)

○Slowind 公式サイト: <http://slowind.org/en/concerts/>

●「トリスタンとイゾルデ」～KARAS舞踊公演

ダンサーとして振付家として活躍する勅使川原三郎氏と、勅使川原作品のメインダンサーを務める佐東利穂子氏による舞踊公演。演目は、ワーグナーの「トリスタンとイゾルデ」。

○日時: 11月7日(火)午後19:30～

○場所: ツァンカリエウ・ドム(住所: Prešernova cesta 10, Ljubljana)

○公式サイト: <https://www.cd-cc.si/en/calendar/2017/11/07>

●日本映画週間2017

今年の日本映画週間では「ドラマチック・ジャパン」をテーマに、友情、愛情、失われた人への誓いなど、人々の熱い思いと情熱をドラマチックに描いた作品群を上映します。上映時間等の詳細は、後日当館のホームページやフェイスブック、映画館のウェブサイトに掲載予定です。入場料無料。

○日時: 11月6日(月)～9日(木)夕刻(後日告知)

○場所: キノ・ベジグラッド(住所: Linhartova cesta 11, Ljubljana)

○上映作品: 「陽光桜」, 「バンクーバーの朝日」, 「人生の約束」, 「あやしい彼女」の4作品

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が多発しています！

リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が多数発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城、ポストイナ洞窟でも被害が発生しています。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入らず、異変を感じたらすぐに確認してください。